宗教感話

私にとっての キリストの証人とは？

大学経営学部教授
玉木 欽也
TAMAKI Kinya

使徒言行録　1章8節
「ただ、あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となる。」

今回の原稿は、学生の皆さんに向けて執筆することにいたします。

1．聖霊の私への働きかけを日々意識する

イエス様が、昇天される前に弟子たちのところに現れて、弟子たちに「聖霊」を授け、「助け主」、「内在の神」を与えてくださいました。「聖霊」は、今も私自身の中で「内在の神」となってくださっています。つまり、私たちが家族と過ごしている時も、普段の生活をしている時も、いつも私たちを見守り、導いてくれています。

私の場合をご紹介しますと、祈りの時以外にも、朝起きて何かを準備している時や、職場で仕事をしている時などに、フト思いつくことや、耳元で小さなささやきを感じること、あるいはバッタリ知人と会えてよかったという時があります。

そのような時には、偶然だった、ラッキーだったでは済ませず、「神様、ありがとうございます」、「聖霊様、確かにそうですね」と、聖霊が働きかけてくださっていることを意識するようにしています。

この記事を読んでいただいた皆さんは、若い時から、聖霊がいつも私たちを見守り、あなたに働きかけ、チャンスを備えてくださっているということを、日常の生活の中で意識していただきたいと願っています。

2．クリスチャンとしての生涯の目標

冒頭の聖言にイエス様が宣言されているように、クリスチャンとしての生涯の目標は、聖霊の助けを受けつつ、イエス・キリストの証人となることです。

自分の利益や成長したい目標を目指して、日々研鑽を続けることは大切なことですが、それだけでは証人としては不十分だということです。つまり、自分自身を大切にするように、身の回りの人々、そして社会のために、奉仕し、貢献できるように人格を形成していくべきだと、イエス様はあなたに語りかけています。

3．エルサレム：「家族との愛の体験学習」

皆さんのご両親は、若い時は異性として愛し合い、今は時を重ねて人生の伴侶として助け合いながら過ごしています。また、子育ての喜びと困難を乗り越え、親としても成長しています。

子どもの立場から、家族の一員としての意義を考えてみると、「家族愛（愛されていることへの信頼と安心）と、奉仕（隣人愛：自分のしてほしいことを他の人にしてあげる）」を、家族との実践生活を通して体験学習をしていることになります。家族の中で、両親や兄弟姉妹と共に過ごしながら、神様からの無限の愛を体験的に学んでいることに繋がっているのです。

4．ユダヤとサマリア全土：「ライフスタイルと人間関係」のフィールド学習

ここでは、家庭の外である社会生活の基盤として、学生のキャンパスライフとそれを取り巻く外での活動について述べます。学生がキャンパスライフを通して、どのように「ライフスタイルと人間関係」を学ぶべきか、どのように人格的な成長をしていくべきかを考えてみましょう。例えば、（1）学生生活：授業参加、ゼミ活動、サークル活動、アルバイト、ボランティア活動、（2）人間関係：友人との交わり、その反対に自分とは合わない人（敵対する人）との接し方が、フィールド学習になります。

その際の学びのポイントは、「個人主義にならない」ことです。なぜなら「個人主義」は、自分のために「社会生活の基盤」を築いてくれていて、その居場所にあなたを迎え入れてくれたこと、一緒に交わる時を過ごしてくれたことなど、多くの人々、先輩方、そして何よりも神の備えの恵みの大きさをまったく理解していない生き方だからです。

イエス様は、「偉くなりたい人は、他の人に仕えるものとなりなさい」として、青山学院がミッションポリシーに掲げている「サーバント・リーダー」を目指すべきだ、これが人格的な成長への人生の指針だと宣言しているのです。学生の頃から、そのことを自分の人生哲学として、自分自身の中心軸に据えてください。

5．地の果て：「仕事・職業を通した社会的貢献」

3年生・4年生を通した就職活動を経て、卒業後には、神様に導いていただいた様々な職場に派遣されることになります。つまり、弟子たちが宣教のために世に送り出された時のことを思い出してください。

キャンパスという守られた〝牧場〟から出て、皆さん一人ひとりが、「理想と現実」が錯綜する「職場での協同プロジェクト」の一員に加わります。職場の全員がプロジェクトの成功に向けて、全力をあげて立ち向かうことになります。人間は、利害関係、困難に遭遇した際に、自分の性格や損得勘定がむき出しになります。いかに人間関係が難しいか、実体験した人でないと決してわからない苦しみを味わうことがあります。

そのような窮地に立った時こそ、イエス様と聖書の言葉に耳を傾け、心を強めて、勇気を出してください。「世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝っている。」（ヨハネによる福音書16章33節）「友はどのような時でも愛してくれる。兄弟は苦難の時のために生まれる。」（箴言17章17節）

そうすれば頑張り抜いた時に、同僚からの感謝の言葉や、仕事を通してお客様からお礼の言葉をいただけることがあるでしょう。

つまり、信仰は飾りものではなく、個人的に人格形成を高めるためでなく、世の実践の中で、厳しい切磋琢磨を受けつつ、失敗から学び、勇気を出して立ち向かうためにあると思います。